



[水田作部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. 水稲「きぬむすめ」の高品質、一定収量の基準とそれを実現するための㎡当たり粒数

[要約]

「きぬむすめ」の高品質、一定収量の基準は、整粒割合70%以上かつ収量540kg/10a以上で、これを実現するためには㎡当たり粒数29,000～31,000粒を目指す。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

水稲品種の「きぬむすめ」は本県でも作付を急速に伸ばしてきているが、収量、品質が安定していない生産者も多くみられる。そこで、高品質、一定収量となる目標基準を作成し、その基準を実現するための㎡当たり粒数を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 4か年の試験において、整粒割合が70%以上になると、農産物検査で2等になるサンプルはなかった（図1）。
2. 整粒割合70%以上を満たす栽培条件における収量の平均値は、約540kg/10aである（図2）。
3. 粒数が増えると収量は増えるが、整粒割合は低下するため（図3、図4）、整粒割合70%以上かつ収量540kg/10aを実現するための㎡当たり粒数は29,000～31,000粒となる。

[成果の活用面・留意点]

1. 赤磐市の農業研究所の地力中庸な圃場（土壌可給態窒素量：8～10mg/100g）において、窒素量0～12kg/10aの全量基肥施用、5月下旬及び6月下旬移植、栽植密度9.3～22.2株/㎡の条件で4年間試験して得られた結果である。
2. この基肥窒素量の範囲で栽培した「きぬむすめ」では、食味官能試験（日本穀物検定協会に依頼）において、食味に差はなかった。
3. ㎡当たり粒数が少ない場合でも、登熟期の著しい高温等、気象によっては整粒割合が低下する場合がある。



[具体的データ]

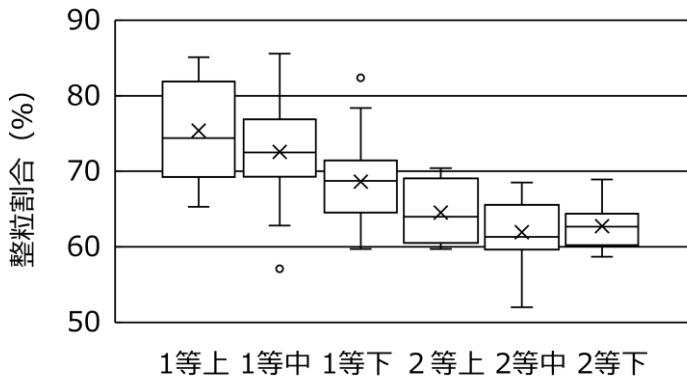


図1 検査等級ごとの整粒割合(n=106)

箱下端：第1四分位数、箱内の横線：中央値
 箱上端：第3四分位数、上下のひげ：最大値と最小値
 ×：平均値、○：外れ値

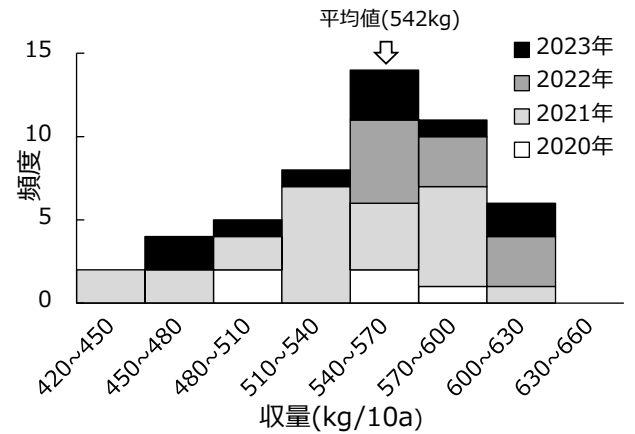


図2 整粒割合70%以上を満たす収量の頻度分布(n=50)

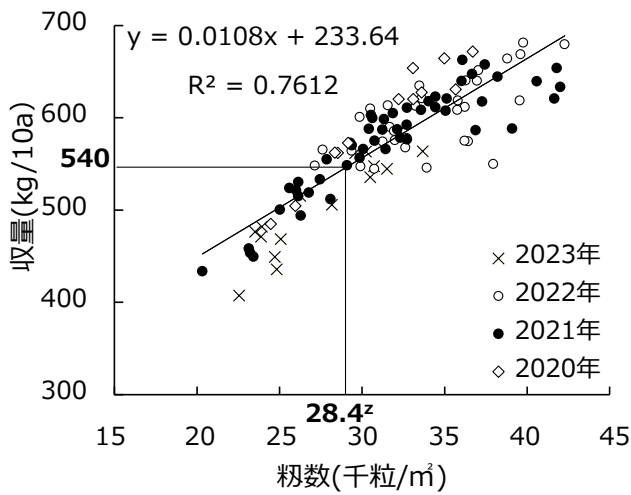


図3 m²当たり籾数と収量の関係

^z一定収量(540kg/10a)が得られる
 籾数は28.4千粒/m²以上である

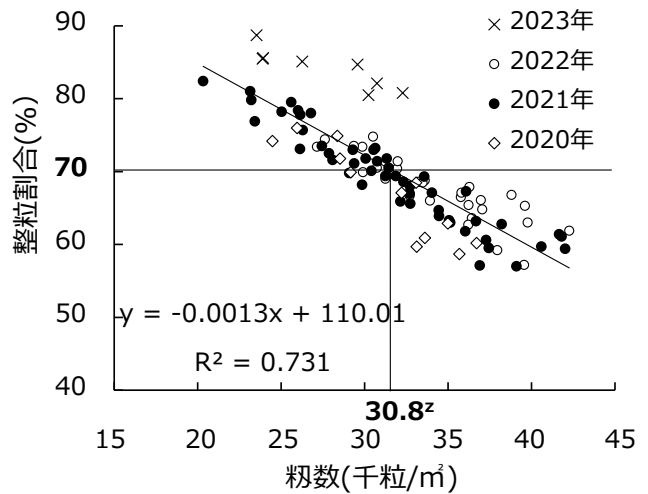


図4 m²当たり籾数と整粒割合の関係

注) 登熟期間が著しい高温であった2023年5月移植は除外した。
^z高品質(整粒割合70%以上)が得られる籾数は30.8千粒/m²以下である

[その他]

研究課題名：「きぬむすめ」の高品質安定生産技術の確立

予算区分・研究期間：県単・令3～5年度

研究担当者：金谷寛子、前田周平

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[令5 \(11-12\)](#)